

学 位 論 文 要 旨

氏 名 西田 裕明

題 目 知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症児における「アニメーションセルフモデリング」適用による家庭生活スキルの指導研究

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

本論文は第1章から第6章で構成された。第1章は本研究の背景と目的、及び本論文の構成を示した。第2章から第5章までは単一事例研究法を適用した4つの指導研究であり、第6章は総合考察であった。第1章では、本研究の背景として、知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症（以下、ASD）児が家庭生活スキルを獲得することは、生活の質の向上や家族の負担軽減などに意義があり、これまでも指導研究が行われてきた。先行研究では、ASDの強み（視覚的な刺激に対する反応性の高さや興味・関心に基づくこだわりなど）を活かした支援方法が用いられ、文字や絵カードによる手順書、文字や写真による手順書、さらに複雑なスキルの指導には、ビデオモデリング（ビデオ教材を用いたモデルの観察学習）やビデオセルフモデリング（対象児自身の適応行動を支援者が撮影・編集し、そのビデオ映像を対象児本人が視聴する手続き）などが活用され、スキルとしての行動連鎖の獲得に一定の効果が示されている。このビデオセルフモデリングは対象児自身がモデルであるため親和性が高いという利点があるが、ビデオ製作時に対象児に標的行動を行わせるため、既得スキルである可能性や、映像を撮影している間にスキルが獲得されることも予想され、ビデオセルフモデリング単独の効果を測定することの難しさも示唆された。これらの課題に対して、「アニメーションセルフモデリング（animation self-modeling：以下、ASM）」を考案した。ASMは、対象児がモデルとして登場するアニメーション動画を本人に視聴させ、それを手がかりに行動獲得を図るものである。ASMは、「対象児の顔写真をイラストの体に貼りつけて製作した“対象児モデル”が標的行動を行う（映像製作時に対象児への負担がない）」「標的行動に必要な情報のみを表示する（背景の簡略化・削除）」「各行動項目に合わせた場面を作ること、一つずつの行動の連鎖が明確になる」といった3つの利点が挙げられる。本研究では、知的能力障害を伴うASD児の家庭生活スキルにおける行動連鎖の獲得と般化の困難さに対して、指導者のプロンプトに依存しない視覚刺激であるASMを用いて指導を行い、スキルの獲得と般化には、どのようなASMの工夫や修正、提示方法などを行うことが有効なのかを検討することとした。

第2章では、知的能力障害を伴うASDの生徒1名に対して、家庭場面で求められる掃除スキルといった長い行動連鎖の獲得と般化について、ASMを用いた指導の効果の検討を目的とした。課題分析とアセスメントを通じて、参加児の課題に対応した工夫をASM教材の中に取り入れ、映像を製作した。指導の結果、掃除の手

本を直接観察する手続きより、ASMを視聴する手続きの方が掃除スキルにおける行動連鎖の獲得に効果がみられた。また、家庭場面においても掃除スキルの般化がみられたことから、本研究の参加児に対して、ASMは長い行動連鎖の獲得と般化に有効であると示唆された。

第3章では、知的能力障害を伴うASD児2名に対して、コミュニケーションが含まれる電話の応対スキルに対して、ASMを用いた指導を行い、どのようなASMの修正や提示方法がスキルの獲得と般化に有効なのかを検討した。指導では、手本モデルの提示とASM教材の視聴を基本とし、参加児の誤反応や無反応に対応したASM教材の修正や提示方法の変更を取り入れる介入パッケージを適用した。その結果、参加児2名は、電話の応対スキルを獲得でき、家庭場面での般化テストでも標的行動の達成率が100%であった。参加児の誤反応に対応した修正やルール提示等を追加したASM教材は、手本モデルの提示より、コミュニケーションを含む電話の応対スキルの獲得と般化に効果的であった。

第4章では、手洗いはできるが「丁寧さ」が十分ではない知的能力障害を伴うASD児1名に対し、課題分析に基づき製作したASM教材を視聴し、新しい生活様式に対応した手洗いスキルの獲得と般化、さらに行動連鎖遂行における丁寧さの向上について検討した。指導では、行動のつながりに着目した課題分析を行い、スキルの遂行順序や、参加児の強みの活用などを検討した上で、歌入りASM教材を製作・活用した。その結果、歌入りのASM教材の視聴により、標的行動を正確に遂行できるようになり、ASM視聴なしでの般化も成立した。本研究の参加児には、歌入りのASM教材視聴が、手洗いスキルの獲得並びにスキル遂行中の丁寧さの向上に有効であった。

第5章では、家庭生活スキルの遂行中に行動問題が生じる知的能力障害を伴うASD児1名に対して、機能的アセスメントに基づく支援方略の1つとして参加児自身の強みである「限局した興味」を活用したASM教材を製作し、行動問題の抑制と望ましい行動の促進について、その効果を検討した。アセスメントの結果、行動問題の機能は感覚刺激であると推定され、参加児の「限局化した興味」を活用したASM教材を一日1回視聴する手続きを実施した。その結果、家庭場面における行動問題は抑制され、それに代わる望ましい行動が増加した。

第6章では、各章を総括し、ASMが教育現場や福祉施設などで活用されるための製作方法への研修等について、総合的な考察を行った。